

桜美林大学・ダナン大学・廈門大学 国際共同シンポジウム

『GMS 地域の経済発展と国際物流ネットワークの形成』 報告

田 村 考 司

去る 3 月 12 日、中国・廈門大学にて、『GMS(グレーター・メコン・サブリージョン：大メコン圏)地域の経済発展と国際物流ネットワークの形成』というテーマで産業研究所主催の国際共同シンポジウムが開催された。産業研究所では過去 5 年間にわたり、日中越 3 カ国間の国際分業の現状、ならびにベトナムにおける裾野産業の育成と工業化をテーマとした国際共同研究を実施してきた。今年度は過去の成果を踏まえた上で、ベトナムのダナン大学と中国の廈門大学の協力を得て、GMS 地域の経済発展に対して国際物流ネットワークの形成が果たす役割をテーマに共同研究を行ってきた。2008 年 10 月にはベトナム・ハノイで日系物流企業へのインタビュー調査を実施したが(詳細は『産研通信 No.73』)、本シンポジウムは上記の共同研究の成果を総括的に発表する場となった。以下でシンポジウムの概要を報告する。

1. シンポジウムの概要

シンポジウムの会場となった廈門市は福建省南東部にあり、ちょうど台湾の対岸に位置した港湾都市である。非常に風光明媚な景勝地であり、気候も穏やかで過ごしやすい環境である。廈門市は改革解放政

策に伴い、1980 年代に経済特区の 1 つに指定されており、台湾系を中心に外資系企業が数多く進出している。廈門大学は廈門島の南に位置し、中国で唯一経済特区に創立された 985 工程に属する教育部直轄の総合大学である。壮大なキャンパスは全面に港湾、後方には名刹の南普陀寺があり、キャンパス内にも水と緑が数多くあるアカデミックな雰囲気になり満ち溢れた大学である。

シンポジウムは廈門大学の東南アジア研究センター教授の王勤教授、本学の小松出教授、ダナン大学の Truong Ba Thanh 教授の挨拶で開幕し、日中越からそれぞれ 2 名ずつ計 6 名が午前と午後の部に分かれて報告し、それにコメントが付されるという形で進められた。以下に報告者と内容を要約し、タイムテーブルも載せておく。

第 1 報告は、本学の松尾昌宏准教授による「GMS 地域における交通インフラ整備と大都市製造業の周辺地域展開」である。GMS 地域における交通輸送網の整備が製造業の立地に与える影響を経済地理学、空間経済学の理論的枠組みから説明した報告であり、タイ・中国を事例として、交通

輸送網の整備が製造業の大都市中心部から周辺部への展開を引き起こし、開発経済学における二重経済モデルに修正を迫っているとした。

第2報告は、廈門大学東南アジア研究センター王勤教授による「グローバル金融危機のGMS地域における経済発展と協力への影響」である。アメリカ発のグローバル金融危機によってGMS地域諸国の経済成長率は低下し、金融市場にも動揺をもたらしており、タイ・ベトナムなどは景気刺激策を採って対応しているが、GMS域内での経済協力も影響を受けざるをえないとの見通しが示された。

第3報告は、ダナン大学のDao Van Hoa専任講師の「東西回廊における物流サプライチェーンへのダナン市の役割」である。東西回廊の出発地点となるダナン市は物流サービスを発展させるための好条件に恵まれており、企業へのアンケート調査に基づいて、ダナン市の役割を強化するための諸提言が報告された。

第4報告は、筆者の「経済回廊を活用した物流事情と日本政府の対ASEAN物流政策」である。ベトナムに進出した日系物流企業による中越陸路輸送サービスの現状と課題を踏まえて、日系企業の利害に配慮べく、官民一体となって展開されている日本政府の対ASEAN物流政策の現状と問題点を指摘した。

第5報告は、廈門大学高等教育研究センター陳武元教授による「GMS地域における人的資本開発経験の適用」である。本報告では、理論的にもまた中国の実施においても検証されている人的資源開発促進への経済発展の影響を前提に、時系列の各種指標からGMS地域の経済社会開発の水準が未だ低く、労働力の質も低い

状況に対して、交通インフラと物流ネットワーク発展による経済発展への契機を確立する必要性と、具体的な人的資源開発の措置への取り組みが提言された。

第6報告は、ベトナム国立経済大学のNguyen Ngoc Son専任講師による「GMSにおけるベトナムのロジスティクスとマルチ輸送の発展」である。ベトナムにおけるロジスティクスとマルチ輸送の発展水準は低く、GMSの枠組みの下で発展水準を高めるための提言がなされた。

最後に、本シンポジウムの締め括りとして、本学のDo Manh Hong専任講師、ダナン大学のTruong Ba Thanh教授、廈門大学の王勤教授の3名から総括的発言がなされ、シンポジウムは無事終了した。

2. ベトナム・プロジェクトに参加しての所感～終わりにかえて

本シンポジウムは多くの方の協力を得て開催することができたが、とくに廈門大学の陳武元教授には会場の確保から通訳を始め運営スタッフの手配、報告集作成など様々な面でご尽力いただいた。また、シンポジウム開催時に折良く調査のために廈門大学を訪問されていたメディア教育開発センターの苑復傑教授には急遽、通訳・コメンテーターをお願いしたにも関わらず、快く引き受けていただき、シンポジウムをスムーズに遂行することができた。両教授には記して感謝したい。

さて、数多くの成果を出してきたベトナム・プロジェクトも今年度をもって産業研究所が主催することは終了となった。筆者自身は過去のプロジェクトに参加しておらず、ベトナム経済や国際物流といったテーマにも全くの門外漢であるため、事務主任という立場上から本プロジェクトに参加させていただいたに過ぎなかった。そのため、

過去の成果を総括的にまとめる資格や能力もないが、調査・研究を進める過程においてこれらテーマが「東アジア共同体の形成」、「新興国経済の台頭」、「チャイナ・プラスワン」などの観点からも非常に興味深いテーマであることを実感し、今後の研究にとって有益な機会となった。

なお、シンポジウムの報告レジュメ集は部数僅少のため配布することは不可能であるため、興味・関心のある方は産業研究所で閲覧していただきたい。

《シンポジウム・プログラム》

午前の部

報告者：松尾昌宏(本学准教授)

「GMS 地域における交通インフラ整備と大都市製造業の周辺地域展開」

コメンテーター:Truong Ba Thanh(ダナン大学教授)

報告者：王勤(廈門大学教授)

「グローバル金融危機の GSM 地域における経済発展と協力への影響」

コメンテーター:Nguyen Manh Toan(ダナン大学専任講師)

報告者：Dao Van Hoa(ダナン大学専任講師)

「東西回廊における物流サプライチェーンへのダナン市の役割」

コメンテーター:田村考司(本学専任講師)

午後の部

報告者：田村考司(本学専任講師)

「経済回廊を活用した物流事情と日本政府の対 ASEAN 物流政策」

コメンテーター:苑復傑(独立行政法人メディア教育開発センター教授)

報告者：陳武元(廈門大学教授)

「GMS 地域における人的資本開発経験の適用」

コメンテーター:小松出(本学教授)

報告者：Nguyen Ngoc Son(ベトナム国立経済大学専任講師)

「GMS におけるベトナムのロジスティクスとマルチ輸送の発展」

コメンテーター:王勤(廈門大学教授)